

えひめ経済人

次代 を 拓く



石川克晴代表取締役(47)

日 々 漸 進

地域経済

Line

少量多品種柔軟に対応

紙と紙、紙とフィルムなど複数の素材を貼り合わせるラミネート加工で、医療用の衛生素材や建材、食品の包み紙などを製造している。小回りが利く自社工場で、小ロット多品種に対応。得意とする紙袋や包装紙は、ネット通販の伸長で近年好調だ。

柔軟で細やかな対応力は中小企業の強み。さまざまな経験を重ねてオペレーター腕が上がり、機械の立ち上がりなどのロスも少なくなる。

父親が創業し、私は2001年に東京から帰郷して入社した。16年夏からは引退した父に代わ

江南ラミネート (四国中央市)

り、実質的に社長として私が切り盛りするようになった。

当時の課題は、部門の壁や社員の人間関係。会社の利益が上がっていても、社員が次々に辞めていた。試行錯誤の末、社員が自ら考え、やりがいを持って仕事ができる会社にしよと考えた。

掲げたブランドデザインは「紙産業の魅力を発信し、故郷を誇れる人を増やし、地域の発展に貢献する」。四国で一番愛される会社を目指す。経営理念は「会社は、社員の幸せのために全力を尽くし、社員は自分を

取り巻く全ての人のために、自分の能力を最大限に発揮する」。社員本人が幸せでない、顧客のために全力を尽くすことはできない。制度をつくるのは会社だが、社風をつくるのは社員。楽しく仕事し、「お互いさま」と家族のように助け合える会社になりたい。

社員はブランドデザインの具体化に向け、動き始めています。社内新聞の発行や勉強会、他社研修などを実施。昨春秋には、有志が「いい会社づくりプロジェクト」を立ち上げ、クラブ活動の充実や意見箱の設置などアイデア

アを形にしている。こうした取り組みを通じて、顧客らに喜んでもらうという意識が高まり、品質、売り上げの向上につながっている。先輩が後輩を育てようとの機運が高まり、退職者も減った。

先人たちの人生を懸けた努力により、紙のまち四国中央市の今がある。製紙や印刷などさまざまな企業が関わり、新しい製品を次々と生み出している。私自身も感謝の気持ちを忘れず、地域の発展を使命として、一歩一歩進んでいきたい。
(聞き手・西尾寛昭)

【いしかわ・かつはる】四国中央市出身。関西学院大を卒業後、大手日用品メーカーを経て2001年江南ラミネート入社。14年から代表取締役。

【江南ラミネート】本社は四国中央市川之江町。1979年に江南紙工として設立。90年にラミネート加工部門を分社化し江南ラミネートとして設立。2005年、江南紙工を吸収合併した。社員数43人。